

# 女性ひろば

おかやま女性情報誌 第5号

1993.9.



● ~ひとりでがんばらないで~ 介護 ● 男女共同社会をめざす女性問題エッセイ優秀作品発表



# ～ひとりでがんばらないで～ 介護

昨年1月くも膜下出血で倒れた夫(43歳)を在宅介護中の笠原富子さんを訪問。

富子さんの夫は車椅子の生活の上、失語症があり細かい意思の疎通は難しい状態です。自宅療養になってからは、市の保健婦や訪問看護婦から介護情報の提供や介護指導を受けています。自宅での入浴は、近所に住む夫の弟が手伝っています。

「体格のよい夫をひとりで抱えられるくらい力があるし。男性の協力があるとやっぱりちがいますね。」

3人の子もたちも進んで家事を分担するようになりました。

「家族の気持ちがひとつになった気がします。」

「体力をつけてリハビリに通えるようになること、補助具をつけてでも歩行できるようになることが今の目標です。」

「夫は私の態度や表情からすべてを判断するので、明るく元気に毎日を暮らすように心掛けています。」

と話す富子さんの笑顔が印象的でした。

## 知っ得情報 Q&A

Aさん夫妻の場合



夫45歳、妻40歳、共働きで68歳の夫の母が脳卒中で倒れ、後3か月間は老人保健施設でました。その後は自宅で介護

す。子どもは小5と中1のふたりです。現在入院中です。半身不随のため、退院リハビリをするようお医者さんにいわれするつもりです。



働きながら自宅で介護できるでしょうか。

ホームヘルパーや訪問看護を頼んだり、在宅介護支援センターなど各種サービスを利用したりして工夫しましょう。高齢者福祉課発行の「すこやかでふれあいのある長寿社会をめざして」<sup>1)</sup>という冊子にはヘルパーや在宅介護支援センターのほか、老人保健施設、ショートステイ、入浴サービス等の情報が掲載されています。



もうすぐ退院の予定です。どこにどんな老人保健施設があるか知りたいのですが。

もよりの福祉事務所<sup>2)</sup>へお尋ねください。前出の冊子<sup>1)</sup>にも掲載されています。



母が自宅に戻るまでにどんな準備をしておけばよいでしょうか。

車いすで家の中を移動できるように住宅を改造する必要があります。他に、手すりをつけたり、お風呂やトイレの改造もできればいいですね。



介護のしかたがわからないのですが。

まず保健衛生課<sup>3)</sup>へお尋ねください。保健婦が訪問指導をしています。半身不随の方にはリハビリが大切です。保健衛生課では機能訓練事業も行っています。また、主治医の先生ともよく相談しましょう。



職場で介護の学習会をしたいという声があるのですが。

女性児童課<sup>4)</sup>では「寝たきりゼロをめざして」「安心して老いるために」などのビデオを貸出しています。少人数の集まりにも貸出します。社会福祉協議会<sup>5)</sup>では、ボランティア講習会にも無料で福祉機器・介護用品を貸出しています。



母に車いすが使えるかどうか心配です。

社会福祉協議会<sup>5)</sup>では、福祉機器・介護用品を無料で貸出しています。車いすの他、簡易浴槽・簡易トイレ・歩行器などもあります。貸出期間は6か月以内で、使用してみたら購入を決めることができます。



介護ボランティアの時間貯蓄制度というのがあるそうですが。

家事援助や介護などのボランティア活動をした時間を貯蓄し、将来自分に介護が必要になったときに貯めた時間分の介護が利用できるという制度です。詳しくはまごころサービス岡山東センター<sup>6)</sup>にお尋ねください。

私の父は13年前に脳血栓で倒れ、以来老人性痴呆が進み今では言葉がほとんど出ない状態です。母は足が悪いので、昼間はデイサービスを利用したり、姉ふたりと私が交替で看病したりしていました。

一昨年、母が骨折で入院したので、父を施設に預かってもらうことにしました。初めて施設に父を訪ねたのは、ちょうど夕食時でした。広い食堂を見渡すと、ビニール製のエプロンを掛け、うつろな目でさびしそうに座っている姿が目映りました。若い頃の父とは程遠い姿に目頭が熱くなり、ろくに話してもできずに帰りました。けれども何度も訪問し、みんなの行動を見ているうちに、かわいらしく見え、いとおしさを感じるようになり、命の大切さを教えられました。

痴呆や寝たきりの人のお世話は大変ですが、今では、将来は介護の専門職に就きたいと思うようになりました。

楠戸順子 (ご寄稿いただいたものを一部割愛して掲載しました)

池谷葉子さん(仮名・63歳)の実母は83歳のとき脳梗塞で入院、右半身麻痺になり、以前から左足は悪かったので、いよいよ歩けなくなりました。

退院後は医師の往診、入浴サービス、訪問看護などを受けながら自宅で介護しましたが、1年後、介護疲れから葉子さんは胃潰瘍になり、それを契機に母親は若宮老人保健センターへ入りました。

「すると母もとても元気になりましたね。手の指も動き出して体の動きも軽くなったんですよ。」

「母は人見知りするほうで最初は行くのを嫌がっていましたが、センターへ入ったことが刺激になり、また社会勉強にもなったようです。」

「いろんな方が来てくださると嬉しいようですね。それに年をとっても甘えずにシャキッと規則正しい生活がいいようです。」

「介護はひとりでは無理です。複数でしなければ。男性にも手伝ってもらいたいですね。」

葉子さんの実感です。



留守中、母のことが心配です。

家族で連絡が取れるように工夫するとともに、ご近所の方々にも協力をお願いして、いざというときの連絡ができるようにしておきましょう。そのためには、普段からの近所付き合いも大切です。



夜間に介護用品の使い方や介護のしかたで相談したいことができたときはどうしたらいいでしょうか。

在宅介護支援センターでは、電話での相談を24時間受け付けています。在宅介護支援センターは前出の冊子<sup>1)</sup>に掲載されています。

## 退院直後のAさん宅の在宅介護モデルプラン

	月～木	金	土	日
出勤前	母を車椅子に乗せる 母の昼食を用意する	月～木に同じ	月～木に同じ	
午前	[月・水] トイレ、昼食、リハビリを訪問看護ステーション(有料)に依頼<2時間程度> [火・木] トイレ、昼食をヘルパー(有料)に依頼<2時間程度>	10:00～午後3:00 岡山市立健康プラザ、おやかまふれあいセンター等で機能訓練 送迎は地域のボランティア団体に依頼	トイレをヘルパー(有料)に依頼<1時間程度>	リハビリをかねて家族で散歩
午後	4:30 トイレ 小5の子どもの担当 5:30 お茶 中1の子どもの担当 Aさん夫妻が帰宅するまで子どもたちでできることをする 7:00 Aさん夫妻帰宅 帰宅が遅くなりそうときは早めに連絡を取り、必ずどちらかが帰宅する	4:30 月～木に同じ 5 7:00	昼食は子どもふたりと一緒に	
*夕食は家族全員で囲らん		*夜のトイレは夫妻が1日交替で担当		
*毎日介護日誌をつけ、他の介護者との連携をはかる				

- 1) 高齢者福祉課 ☎225-4211(代)
- 2) 保健衛生課 ☎225-4211(代)
- 3) 中央福祉事務所 ☎225-4211(代)  
北福祉事務所 ☎255-2111  
東福祉事務所 ☎272-8228  
西大寺福祉事務所 ☎943-4211(代)
- 4) 女性児童課 ☎225-4211(代)
- 5) 岡山市社会福祉協議会(振興係) ☎222-8616
- 6) 日本ケアシステム協会  
まごころサービス岡山東センター ☎278-2926



## 高齢者福祉の現状と課題

日本人の平均寿命は、戦後間もない昭和22年時点で男性が50.06歳、女性が53.96歳でした。それが平成4年には男性76.09歳、女性82.22歳に達し、短期間のうちに急速に伸びています。一方、出生率は低下傾向が続いており、昨年の合計特殊出生率（ひとりの女性が生涯に産むと予測される子どもの数）は1.50人となっています。

こうした「長寿化」と「少子化」という大きな社会変化の流れの中で、岡山市でも既に高齢化率が13%に達し、今後さらに人口の高齢化が進むだろうと予測されています。

昨年8月の岡山市の調査によれば、「高齢者単独世帯」「高齢者夫婦のみの世帯」「高齢者のみの世帯」が高齢者のいる世帯全体の50%を超えています。子どもとの同居率が年々低下し、従来家庭が持っていた介護の機能が失われつつあります。

こうした中で寝たきり等要援護老人が家庭や住み慣れた地域社会の中で生活を維持していくためには、保健・福祉・医療等の関連サービスが密接に連携した総合的なサービス提供体制の充実が必要不可欠になっています。

このため、岡山市では昭和62年に「高齢者福祉中期構想」を、翌63年にはそれを具体化した「活力ある長寿社会プロジェクト」推進計画書を策定し、中・長期的視点に立った長寿社会対策に取り組んできました。その成果のひとつが平成5年5月に開館した総合福祉施設「岡山ふれあいセンター」です。今後さらに市内4か所に「地域センター」を設置するため、その準備を進めています。また「老人保健福祉計画」の策定作業も進めています。

しかしながら、21世紀初頭に迎える本格的な高齢化社会は、このような行政施策だけで十分に対応できるものではなく、相互扶助の心に育まれた温かい人間関係の絆があってこそ、高齢者にとって本当に潤いのある生活が生まれてくるものです。そのような地域社会を作り出すことこそが、これからの高齢者福祉ではないかと考えています。

市高齢者福祉課長 溝口 信子



## これからの在宅介護

～保健婦さんのお話から～

家庭で介護が始まったとき、介護の中心は妻か嫁か娘と決まっているようです。女性が働いている家庭でも、男性は仕事に専念し家庭のことは女性に任されてしまうのと同様に、介護も当然女性がするものと思われされています。そのため女性のほうでも介護を他人に任せて仕事を続けるという、世間に対して非常に肩身の狭い思いをし、結局仕事を辞めてしまうことが多いようです。今は孫まで協力して介護している家庭もありますが、これからは子どもの数は少なくなる一方で、介護する側の総体的人数が減ってきます。ほんとうに女性が仕事を辞めるしか解決策はないのでしょうか。

これからの在宅介護は、様々な施設や制度を利用しながら家族が協力して介護する方向に向かってほしいと思っています。また地域のみんなが協力しあい、ともにお世話しあえるようになればと思います。施設も、民間・公共とも同程度の内容・料金で、だれでも希望する施設を利用できるようになれば、いちばんよいのですが。



## 女性のひろば 新編集委員の紹介

「このたび編集委員をひとり採用することになりましたが、一緒にやってみませんか？」

『女性のひろば』に心を動かされ、長男の手を引きながら市役所を訪ねた日から一年後。突然のお誘いの電話にふたり目妊娠中の私は戸惑いましたが、せつかくのチャンス到来。育児に奮闘しつつ、自分

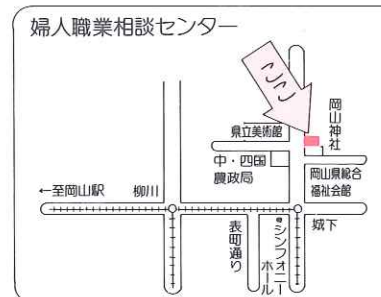
磨きも怠らない元気な若い仲間たちの声が少しでも誌面に生かせたらと、お手伝いさせていただくことにしました。当面の課題は“自分の時間づくり”ですが、この体験を通じ、素敵な出会いの輪が広がってほしいと願っています。

三原 香織（東古松）

## インタビュー

### 子育てしながらも自分を磨いてほしいですね

#### ～岡山県婦人職業相談センター 明石妙子所長を訪問して～



婦人職業相談センターは、どんな仕事をしているところですか？

仕事をしたい女性のために「どのような職業が適しているか」などの相談を受けるとともに、求人情報の提供をしています。また再就職を希望する女性のための各種技術講習会も開催しています。

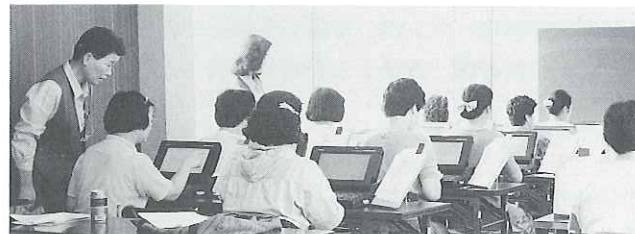
どのような講習会がありますか？

仕事に就いたときに即戦力となるよう、就職準備講座を主軸として、簿記・ワープロ・パソコンなどの講習会があります。岡山はアパレル産業が盛んなので、全国的にも珍しいファッションクリエイティブの講習会もあります。この講習では、人材が不足しているパタンナーの養成を目指しています。ほかに、販売士3級の資格取得を目指すショッピングアドバイザーの講習会もあります。

受講生の皆さんの就職状況はいかがですか？

実際に就職を斡旋しているわけではないので正確な数字はわかりませんが、就職準備講座や講習を受けた方の追跡調査では、就職率はだいたい30%です。

受講生には事務職の希望者が多いのですが、求人が少ないため、なかなか就職に結びつきません。販売職の求人はあるのですが、勤務時間が午後7時頃までということで、就職に結びつきにくい状況です。事業主側で、働ける時間帯の異なる複数の人を組み合わせるなどの勤務体制を創出していただければ、もっと多くの方が就職できると思います。また働くこととする人も柔軟な考え方で職種を広げる努力をしてほしいですね。



子育て後の再就職についてどうお考えですか？

子育ての期間を10年くらい、子育てが一段落する年齢を35歳くらいと考えると、この期間は女性として、またひとりの人間として精神的にいちばん成長し、安定している時です。この間に子育てにだけ目を向けているのはもったいないことです。もちろん子育ては大切ですが、自分自身をしっかり磨いておくことも大切です。

子育て後、30歳代後半で再就職を希望するなら30歳代前半のうちに、資格を取得する。資格を持っていればその上の資格を取る一例えばワープロ3級を持っているのなら2級にチャレンジする。また、必要な情報を積極的に集める努力をしてほしいと思います。早めに準備をし、再就職すれば労働条件も変わってきますし、生きがいのもてる仕事に就きやすいのです。

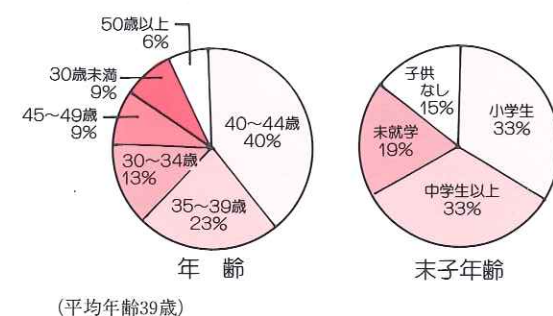
外に出て働くためには、家庭でも身の回りのことは自分でできる子育てが大切ですし、家族みんなで家事分担する習慣など身につけておくことも必要な準備のひとつです。

再就職を希望する女性にアドバイスをお願いします。

女性には優れた能力をもっている人がたくさんいるにもかかわらず、その能力が社会で生かされていなくて残念です。男性と同じように仕事をしていく能力はあるのですから、就職したら、その能力を生かすよう日々努力し、また女性の能力が生かせる社会へと変えることができるような働き方をしてほしいと思います。

また実際の求職活動としては、ハローワーク岡山などへ2週間に1回程度は通い、頻繁に情報収集することも大切です。

平成4年度女性就職準備講座受講生66人のうちわけ



## ふりーとーく 会社が変わった

私の勤務している会社では、3年ほど前から女性の能力開発の教育が始まり、それぞれの職場の仕事に関連した内容の講座や通信教育を受けることになりました。現在私は保険関係の通信教育を受講しています。

今までになかった能力を身につけていくことは大変苦しいことですが、女性の学習や企画作成等の時間を増やすために、今までは女性がして当然と思われていたコピーやお茶くみなどの補助業務を、社長が率先し、部長課長などの男性が自分でくださるようになったのは、大きな喜びです。

今の私には、受けた教育を今後いかに生かしていくかが大きな課題になっています。

佐々木里己（益野町・会社員）



# 女性問題

これが現実  
エッセイ

## 最優秀賞

### 「女って半人前!？」

伊丹典子 (33歳・箕島)

「今日は誰もいないの?」…事務所で一人で仕事をしている時、来客にしばしば言われる言葉である。こんなもある。「今日は一人で留守番?」事務所に男性職員を見つけた時の、客の安堵の表情を私は見逃さない。勤めて何年経ってもこうなのは、自分の能力不足のせいかと、私はずいぶん悩んできた。

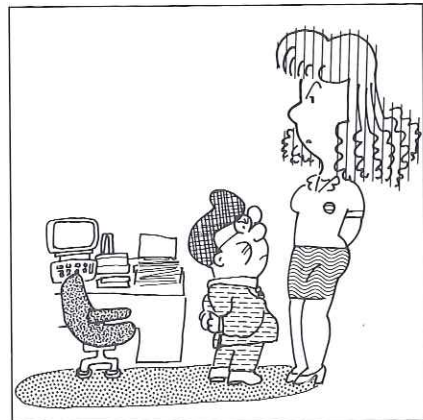
しかし、よくよく考えてみれば、初対面の人でも難しい内容の話は男性を求めると、殊に年配の男性客は、年下の女性など初めからまともな話相手とは見ていないようだ。女性の先輩に話を聞いても、やはり同様の経験があると言う。どうしてこんなことになるのだろうか。

「腐っても鯛」ならぬ「腐っても男」のような考えが、世の男性のみならず女性にも染み込んでいるのではないだろうか。「どんなダメな男でも女よりは使い物になる」という考え方が、この不況下、優秀な女子学生の就職難に拍車をかけていたりする。女子学生の方も、「均等法で、却ってコース分けされて超ハードなキャリアウーマンか、単調事務職かどちらかか選べないなら楽な方がいい。」なんて妙に悟って結婚志向に走ってしまう。私が子供の頃、尊敬する女教師が言った言葉が忘れられない。「女に生まれて良かったと思うのは、責任がないということよ。」

学生時代、男女は平等という気にさせられていた女性たちは、社会に出て三度頭を打つ。入社したばかりの頃、お茶の汲み方を先輩の女子社員に教わらない人は少ないだろう。女子社員というのは、自分の仕事の他にお茶汲み、掃除、雑用をこなして初めて「一人前の女子社員」なのである。仕事一筋を期待される同期の男性を見て、最初の頭打ちを感じる。二度目は結婚と子育て。何しろ忙しい。妻、母、社会人…とスーパーマン並みの働きぶり。だから、おばあちゃんだの、隣の奥さんだの、ことごとく世話にならないと廻らない。これで家庭に入ってしまう人も多い。三度目は子育て終了後。再就職等で気がつく、男性は地位も収入も経験も遙か彼方に行っている。

女性は働きたくても働けない。男性は女性の方まで働いて過労気味。女性は男性と同じ条件で働けないからいつまでたっても半人前。男性はこんな女性をどこかで見下す。…こんな社会的しくみが、男性にとっても、女性にとってもいいことではない。

男と女の関係は、上下ではなくて、よきパートナーであるべきだ。この世に生きていく以上、助けることも助けられることもあるのだから、補い合い、向上し合える関係でありたい。女性だけでなく、障害を持った人や高齢者も、働きたい人をバックアップすることのできる社会。さらに自己啓発したり、趣味や人との触れ合いの時間も持つ、ゆとりある成熟した社会。こんな社会への第一歩は、古くて新しい男と女の間を今一度、見直すことから始まるのではないかと思う。



(マンガ 松元 興吉さん)

女性問題に理解を深めてもらうため、地域や職場・家庭などの中での男女平等についてエッセイを募集しましたところ、市民のみなさんから44点のご応募がありました。その中から、最優秀賞1点、優秀賞2点をご紹介します。



(マンガ 伊丹 典子さん)

## 優秀賞

### 「女性問題 —私の周辺—」

都築京子 (35歳・広谷)

以前自分のクラスで「男性が得か、女性が得か」という討論会をした。高校二年生が対象だった。ほぼ全員の女子生徒と大多数の男子生徒が「女性が得」の側についた。その主な理由として、女性は結婚を機に家庭に入ることと責任がないこと等が挙げられた。私には全く予期しない結果だった。第一に若い世代の人達が女性には責任がないと思っていることに驚いた。次に責任のない生き方を選びたがっていることに更に驚いた。

社会に出る前の若い人達がこういう考え方をもちの何故だろう。五歳の娘がどこで覚えて来るのか、よく口にする言葉がある。「赤は女色、青は男色。台所は女の職場、男はテレビを見てゴロゴロしている。」その度に私は「今から男、女と決めつけないで。」と注意する。「だってみんな言ってるよ。」の押し問答が続く。「人のことはいいから、自分がそういう事を言うのは止めなさい。」この点に関しては娘の頭の方が私より頑固である。少なくとも私から「女だから」と口にするのではない。社会の中で男女の役割分担意識が既に出来上がっているということか。子供の時からみ出さないように育てる土壌が既にあって、そこで熟成されていくということか。

私は連れ合いと別れて、やっと目が開けたような気がする。確かに男性と暮らしていた時には、生徒達が言うように自分の中に甘えがあった。仕事に悩む時には「何時だってやめられる」と思っていた。ところが独りになることを選んでからは、仕事に対して、いや生活全般に対して意識が変わった。甘えてはいられない。最低限でも自分の事は自分でやらなければいけなくなった。娘もいる。独りになることには不安もあったが、やっと原点に戻れた。これからは歩く方向も速度も自分で決められるという自由がある。緊張感もあって、それを嬉しく思う。心からも身体からも贅肉が落ちて行くのを感じる。不必要なものはもう持たなくてもいいと思う。

ただ娘が病気をする時には、申し訳ないと思っても、所詮気負っているのかと落ち込む。同僚の女性を見ても、祖父母と同居、或いは近距離に住んでいる人が多い。女が外で働くには、陰で協力してくれる人が必要なのだろうか。その条件を満たさないと務まらないのか。また夫が留守がちな主婦がよく口にする「うちは母子家庭のようなものだから」という言葉に、内心傷つく。本当に母と子の家庭というのは、母親が外で働いて収入を得ることで、時に病気の子供を置いてでも行かなければいけない辛い思いをしているのだ。反論はしないが、心無い言葉だと思ふ。母と子の家庭というプライドさえている私には、レベルの低い考え方だと感じてしまう。

最近知人が嬉しいことを言ってくれた。「独りで働きながら子供を育てるのは大変だと思うけれど、夫がいて子供を育てて人よりあなたの方が楽しそうに子育てをしている。」この言葉は嬉しかった。今、私には仕事もあり、娘もいる。夢もある。でもそれは自分で努力して得たものである。世間の枠の中で生きて来た私が、その枠を捨てて、夢中で迷いながら過ごすうちに、自分でも意識しないうちに、他人と比較することをしなくなっていた。独り歩きの効用である。人は歩き始めて自分の始末は自分でするものだ。いつまでも私自身そのことを忘れたくないし、そうできる人達とかかわって行きたいと思う。

### 「持っていますか——自覚と自信」

奈良井 容子 (18歳・津島新野)

「女の子だから学歴が無くていいよ。」「女の子が高学歴を持つと結婚が難しい。」私が受験期に周囲から言われた言葉である。その影響もあって、と言え言いついになるが、結局私は楽な道を選択し、受験勉強らしい勉強もせず、今の大学へ来てしまった。私には某女子大へ入学して、女性史や現代女性論について学び、私と同じような考えを持つ友人を作って、女性としての人生を深く追求したい。という夢があった。しかし、成績の伸び悩みから、「私は女だから、そこそこの大学に入ればあとはどうにかなるだろう。」と途中で自分の意志を折り曲げてしまった。女性問題について学びたいと思った自分が、自らの心の中に「女性だから」という偏見の念を芽生えさせてしまったのだ。自分にとって都合の良い時には「女性だって」、一転して都合が悪くなると「女性だから」と主張する。そんな自分の矛盾に気付いたのは、つい最近のことである。

今年は、不景気という大きな波が学生にのし掛かっているからか、「卒業したらすぐに結婚しよう」という四年生女性が何と多いことか。就職活動という男女どちらも経験する苦難から逃げ出しているのだ。最近流行している「アッシー君」「みつぐ君」。女性はここでも男性に頼っている。女性が男性を利用しているだなんて大きな見当違いだ。実は、女性自身の力の及ばない点を男性に補ってもらっているということ以外の何の意味もない現象なのだ。これならば、男性が女性に料理や洗濯をして欲しいと頼むのもっともな話だ。家族間でも、女性が家事を分担しようと主張する限りは、自分が他の面で男性に課している負担をやわらげることを考慮しなければならない。現在、女性問題が話題にあがっているからといって、自分の行為も省みず、エゴのみを押し通そうとするのは間違いだ。

あのピンと伸ばした背筋、きりっとした顔つき。女性ならば誰しもが憧れるスチュワーデス。あのスチュワーデスの全身から感じられる溢れんばかりの輝きは、自分への自信と常に人から見られているという自覚からくるものだ。という話を聞いたことがある。私達ももっと自信をもつべきではないか。「どうせ私は女だから」なんて言っではいられない。それが自らの視野の狭窄化を招くのである。

女性に閉ざされた門を叩き開けた。一女性初のバス運転手、幹部自衛官候補等よくニュースになるが、男性にとっても同じことである。男性初の保父さん、看護夫さんがいて、今まで開かれざる門が男性にもあったことにも目を向けてほしい。確かに女性にとって不利だと思われる様々な世情もあるが、そのような事例に関して悲観的な見方ばかりせず、明るく、積極的に働きかけよう。そして、まずは今、身の回りで出来る女性としての自立—自覚と自信を持とう。女性にしか出来ない、女性だから出来る事が沢山あることも忘れずに。



(マンガ 野崎 愛子さん)



(マンガ 高松屋直子さん)



## ご存知ですか? 『介護休業』

介護が必要な家族をもつ労働者の申出により、介護のために一定期間休業することを認める制度です。

昨年、労働省が公表した「介護休業制度等に関するガイドライン」には

- ①男女労働者を対象とすること
- ②要介護者には、配偶者、本人の父母、子供、配偶者の父母を含めるべきであること
- ③休業期間を設定する場合には、少なくとも3か月とすること
- ④休業期間中の賃金や配置、その他労働条件については労使の話し合いで決定し、就業規則等に定めること
- ⑤労働者が選択できる措置として勤務時間短縮等の導入を図るべきであることなどが盛り込まれています。

平成2年の労働省調査によると制度の普及率は、従業員30人以上の企業で13.7%、500人以上の企業で20.0%です。

働きながら安心して家族を介護するためには、みんなの力をあわせ、企業への制度導入や法制化にむけて働きかけていくことが大切です。

## 予告

今後、再就職・パートタイム労働などについて取り上げる予定です。みなさんからのご意見や体験談をお待ちしております。また、フリートークやグループ紹介のコーナーへの参加もお待ちしております。原稿用紙200字程度にまとめて、氏名・住所・団体連絡先等明記のうえ女性児童課へ送ってください。

### ボランティアグループ 西大寺鳩ポッポ



「西大寺鳩ポッポ」は満3歳、会員は27名です。

現在の主な活動は、老人ホーム訪問の他、地域の在宅寝たきり老人の方や障害者の方の話し相手、入浴介助、痴呆老人の友愛訪問等を行っています。

9月14日からは岡山市社会福祉協議会、西大寺支部社会福祉協議会、西大寺鳩ポッポの共催で「あたたかい福祉の町づくり」講座を4回にわたって開きます。一緒に勉強をしてみませんか。

代表 岡崎佐登子



### 上道地区

#### ヘルスボランティア ふれあいの会

私たち上道地区ヘルスボランティア「ふれあいの会」は、平成2年3月、会員数28名で発足しました。

地区内の住民の方が、地域で安心して暮らしていただけるような健康で住みよい町づくりをめざすことを目的としています。実際の活動は、入浴介助、話し相手、介護者の外出時の留守番です。

これからも研修を重ねながら活動に努め、会のスローガンである“出あい、ふれあい、ささえあい”の輪を広げたいと思います。

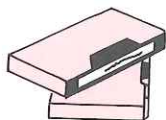


代表 坂田 菊美

『93おかやま女性フェスティバル記録集』を差し上げます。ご希望の方は返信用切手250円分を同封し、女性児童課へ請求してください。

### 編集後記

第5号は今までと少し趣向を変えてみました。どの方のお話を伺っても、みんなで協力しあう大切さを感じました。これからもより多くの方の声を掲載したいと思っています。



### 新着ビデオのお知らせ

#### 夫婦 -そして愛-

夫の転勤、子どもの自立によって、転機に立たされてゆく妻。夫婦とは、そして家族とは、離婚とは、女性の自立とは何かを問いかけます。(カラー38分)

#### HIVとエイズ

日本ではごく限られた範囲でしか知られていないエイズの実際の姿を豊富な臨床事例に基づいたイラストやアニメーションで描いています。(カラー22分)

ビデオは小人数の集まりでも貸し出します。お気軽にどうぞ。また女性問題関連図書も貸し出しもしています。お問い合わせは女性児童課へ。

ごみの減量化・資源化にご協力をお願いします。岡山市

発行/岡山市民生局民生部女性児童課  
岡山市大供1-1-1 ☎(086)225-4211  
表紙制作/板野淑子  
印刷/広和印刷株式会社

本誌ご希望の方は女性児童課へ